

第四回講演会



来訪神行事の行方 —伝統と観光の—考察—

マイケル ディラン フォスター

- 講師: **Michael Dylan Foster** (米国インディアナ大学准教授)
- 言語: 日本語
- 日時: 2013年5月13日(月) 16:10~17:40
- 会場: 明々館 A204

要旨: 各地域には、世代から世代へ受け継がれている文化行事、すなわち伝統がある。ただし、伝統とは、決して昔と同じ姿を留めるものではなく、世代の移り変わりとともに必要に応じて変化を取り入れながら継続されていくものである。本講演では、秋田県のナマハゲと鹿児島県のトシドンという来訪神行事を紹介した上、両地域の住民が、それぞれの伝統文化のありかたを保ちながら、どのように伝統を観光資源として活用し、観光客を受け入れるかを考える。そして、地域での老化、少子化、経済的ニーズ等という現状の上、どのように来訪神行事の「正当性」や機能が変わるのかを考えたい。



ナマハゲ



トシドン

Michael Dylan Foster (左写真の右側)

スタンフォード大学 Ph.D. (2003 年)。インディアナ大学民俗学科及び東アジア言語文化学科准教授、国際日本文化研究センター外国人研究員。民俗学と日本文学の研究、特に妖怪や奇異現象に関する研究を行っている。現在、祝祭・儀式と観光、メディアに関心を寄せている。著作に、2009 年の Chicago Folklore Prize を受賞した *Pandemonium and Parade: Japanese Monsters and the Culture of Yōkai* (University of California Press, 2009 年)、“Haunting Modernity: *Tanuki*, Trains, and Transformation in Japan,” *Asian Ethnology* 71:1 (2012 年) など。

このレクチャーシリーズは、桜美林大学とスタンフォード大学との協定に基づく学術交流の一環として実施されています。講演者は、スタンフォード大学が横浜のみなとみらいで運営するアメリカ・カナダ大学連合日本研究センター (Inter-University Center for Japanese Language Studies) 出身の著名外国人日本研究者です。